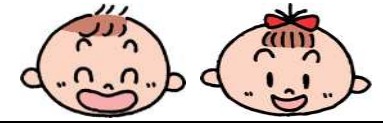


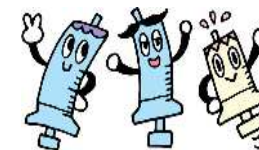


乳幼児期に受ける定期予防接種の一覧



	種別	接種対象年齢(公費接種)	標準接種年齢	回数	方法・内容等	実施場所	
集団	BCG	生後12か月未満	生後5～8か月	1回	月1回定例実施 居住地以外の区でも接種可	保健福祉センター	
個別接種	ヒブ (インフルエンザ菌b型)	接種開始年齢	生後2～7か月未満	接種開始年齢 生後2～7か月	4回	27～56日間隔で3回接種後、 7～13か月の間に1回接種	医療機関
			生後7～12か月未満		3回	27～56日間隔で2回接種後、 7～13か月の間に1回接種	
			生後12～60か月未満		1回	1回接種で完了	
	小児用肺炎球菌	接種開始年齢	生後2～7か月未満	接種開始年齢 生後2～7か月 (追加接種は 12～15か月)	4回	27日以上の間隔で3回接種後、 60日以上の間隔で1回追加接種	
			生後7～12か月未満		3回	27日以上の間隔で2回接種後、 60日以上の間隔で1回追加接種	
			生後12～24か月未満		2回	60日以上の間隔で2回接種	
			生後24～60か月未満		1回	1回接種で完了	
	DPT-IPV4種混合 (ジフテリア・百日せき ・破傷風・ポリオ)	1期初回	生後3～90か月未満	生後3～12か月	3回	20～56日の間隔で3回接種	
		1期追加			初回終了後、 12～18か月	1回	
	4種混合又は	DPT (ジフテリア・百日せき・破傷風)	1期初回	生後3～12か月	3回	20～56日の間隔で3回接種	
			1期追加		初回終了後、 12～18か月	1回	
		ポリオ 平成24年9月1日 から不活化に変更	初回	生後3～90か月未満	生後3～12か月	3回	
追加			初回終了後、 12～18か月		1回	初回(3回)終了後、6か月以上 の間隔をおいて1回接種	
MR (麻しん・風しん)	1期	生後12～24か月未満		1回	1歳を過ぎたら早めに接種		
	2期	小学校就学前1年間 いわゆる年長児		1回	幼稚園等の年長の時期がきたら 早めに接種		
日本脳炎	1期初回	生後6～90か月未満	3歳	2回	6～28日の間隔で2回接種		
	1期追加		4歳	1回	1期初回(2回)終了後、おお むね1年後に1回接種		

ワクチンで予防する乳幼児期の病気について



BCGワクチンで予防する病気

【結核】

せきや発熱が続く病気ですが、子どもの場合、せきなどの症状はあまりみられません。赤ちゃんの場合は、粟粒（ぞくりゅう）結核や髄膜炎（ずいまくえん）など重症になりやすく後遺症が残ったり、死亡することもあります。

ヒブワクチンで予防する病気

【ヒブ(インフルエンザ菌b型)感染症】

インフルエンザ菌b型という細菌は細菌性髄膜炎、肺炎などを起こします。5歳までにかかることの多い病気です。特に、髄膜炎は早期診断が難しく、重症化します。死亡や重い後遺症の残る例も多くあります。

小児用肺炎球菌ワクチンで予防する病気

【肺炎球菌感染症】

肺炎球菌による病気です。細菌性髄膜炎や敗血症（はいけつしょう）、肺炎などを起こします。髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、死亡や重い後遺症の残る例もあります。敗血症は髄膜炎の前段階となることがあります。



日本脳炎ワクチンで予防する病気

【日本脳炎】

感染したブタから蚊がウイルスを運んできて感染し、脳炎を起こす病気です。ヒトからヒトへはうつりません。かかっても、大多数は無症状ですが、脳炎になると高熱、けいれん、意識障害がでます。治療が難しく死亡や重い後遺症の危険性があります。

4種混合(DPT-IPV)、3種混合(DPT)、ポリオワクチンで予防する病気

【ジフテリア】

ノドについたジフテリア菌が増えて、炎症を起こす病気です。38度以上の熱と、犬の遠吠えのようなせきが特徴で、重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋症を起こし死亡することもあります。

【百日せき】

連続したせきが長く続き、急に息を吸い込むので笛を吹くような音をともなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等が起こる病気です。乳児では無呼吸状態になることがあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌が傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開かなくなることが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸できなくなったりします。

【ポリオ】

感染した人の便中に排泄されたウイルスが口から入ることにより感染します。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、症状がでる場合は、熱が下がった後に片側の手足に麻痺を生じます。

麻しん・風しん混合(MR)ワクチンで予防する病気

【麻しん(はしか)】

熱、鼻水、せきなどの症状で始まり、熱がいったん下がった後、上がります。特有の赤い発しんが顔から全身へ広がります。子どもで重い病気です。かかると肺炎や気管支炎、脳炎を合併することもあり、死亡する例もあります。

【風しん(三日はしか)】

発熱、赤い発しん、首のリンパ節の腫れの3症状が特徴の病気です。熱が出ないことも多く、かぜに似た症状で、普通は3日程度で治ります。重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病になることもあります。